



台湾 協易機械工業(SEYI) サーボプレス製品ラインアップを強化 郭雅慧会長兼 CEO に聞く

台湾のプレス大手、協易機械工業(SEYI)は、サーボプレスを加圧能力 1,000t まで拡充する。2011 年の「MF-Tokyo」で披露した 200t サーボのほか、160t もすでに供給を開始。12 年内にも 300t、400t を加え、14 年半ばをめどに 1,000t を完成させる計画だ。狙いは自動車インナーパネルの需要刈り取り。主力の電機業界向けの汎用プレスに上乗せる。台湾桃園県の協易本社で郭雅慧会長兼最高経営責任者(CEO)に会った。

2014 年に 1,000t サーボを投入

—日本勢を追うようにサーボプレスに力を入れています。

郭 2011 年の MF-Tokyo に当社初のサーボプレス(200t)を出品し、今では 160t も供給しており、これから 300t、400t、1,000t と拡充していきます。現行サーボのサーボモーターは低速・高トルクが特徴で、実は日本の研究グループと共同開発したものです。コントロールシステムは、日本勢も採用している米大手のモーションコントローラーで、これからの機種には同じシステムを載せていきます。サーボに限りませんが、日本とドイツのプレスメーカーは業界のトップ。追いつけ、追い越せの精神で



郭雅慧会長兼最高経営責任者
(CEO)

やっているところです。

—日系ユーザーからサーボ、メカともに受注が増えています。今年は日本の工場にステンレスのプレス加工用、板金鍛造のプレス加工用で納入実績をつくりました。郭 日本企業が国内事業を縮小し、海外に盛んに生産移管し

ています。こうした変化は当社にとって商機です。実際に日系企業向けの売上高が短期間で 3 倍に伸びました。日本のユーザーも変わり、日本にある工場でも日本の装置だけを設備することはなくなりました。当社としては、より顧客の近くで仕事をしようと、販売・サービス網を世界規模で整備中です。今年はドイツとタイに拠点を設けました。特に中国やインド・東南アジアで引き合いが活発化しており、東南アジアではタイを足掛かりに日系の需要を取り込む戦略です。一方、生産面では、昨年、中国の第 2 工場をスタートしました。3 年以内に生産能力を倍増したいと考えています。

—日本国内に販売・サービス拠点を設けるお考えはありますか。

郭 それは次のステップと認識していて、現時点では自社で拠点を設けるまでの具体的な計画はありません。ただ、サービスについては、お客さまにお任せしてしまっているので、順次見直していきます。

周辺装置との一体化システムを推進

—本社工場には日本の工作機械が並んでいます。「品質は日本と同レベル、価格は日本の 3 割安」との指摘もあります。

郭 日本のプレスメーカー出身の技術者を招き、すでに約 10 年かけて改善に取り組んでいます。たとえば、クラッチブレーキやギヤ、給油配管など動力関連はすべて見直しました。協力会社もかなり育っています。一方、製品開発ではプレス機械単体だけでなく、周辺装置と一体になったシステムの開発にも力を入れています。当社が目指しているのは会社の規模拡大ではなく、「一番いいメーカー」になるということ。単に機械をつかって、売ってという商売に興味はありません。ユーザーが何を求めているのかを理解し、それを反映した機械をつくり、お売りしたいです。

(日刊工業新聞第一産業部・六笠友和)